

I 第36週の発生動向 (2014/9/1~9/7)

- ヘルパンギーナについては、東地方+青森市管内で新たに**警報**が発令され、弘前保健所管内で解除されました。また、上十三保健所管内で第31週より**警報**が継続しています。

II 第36週五類感染症定点把握

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県感染症発生動向調査 TOP ページをご覧ください。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		前週からの増減	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		数	人/定点	数	人/定点
(90) インフルエンザ															0				
(79) RSウイルス感染症	1	0.1			3	0.3							4	0.1	0			1	0.1
(80) 咽頭結膜熱															-8				
(81) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			7	0.8	16	1.6	2	0.4					25	0.6	-15				
(82) 感染性胃腸炎	26	3.3	7	0.8	8	0.8	2	0.4	1	0.2	4	1.0	48	1.1	-18			26	3.3
(83) 水痘	1	0.1			1	0.1					1	0.3	3	0.1	-8			1	0.1
(84) 手足口病	9	1.1	6	0.7	3	0.3					3	0.8	21	0.5	2			9	1.1
(85) 伝染性紅斑			2	0.2	9	0.9			4	0.7			15	0.4	-1				
(86) 突発性発しん	4	0.5	4	0.4	8	0.8	1	0.2	3	0.5	1	0.3	21	0.5	5			4	0.5
(87) 百日咳															0				
(88) ヘルパンギーナ	50	6.3	9	1.0	14	1.4	6	1.2	12	2.0	15	3.8	106	2.5	-41			50	6.3
(89) 流行性耳下腺炎			2	0.2	3	0.3					2	0.5	7	0.2	4				
(91) 急性出血性結膜炎															0				
(92) 流行性角結膜炎	1	0.5											1	0.1	1			1	0.5
(97) クラミジア肺炎															0				
(98) 細菌性髄膜炎															0				
(100) マイコプラズマ肺炎										1	1.0		1	0.2	-2				
(101) 無菌性髄膜炎															0				
(82) 感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0				

は警報、 は注意報。「空欄」:患者発生無し。

III 全数把握疾患(掲載数は最新情報)

- 結核(二類全数把握疾患): 東地方+青森市1人、弘前5人、八戸3人、上十三1人(2014年計:255人)
- 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患): 弘前1人、五所川原1人、上十三1人(2014年計:14人)
- デング熱(四類全数把握疾患): 東地方+青森市1人(2014年計:1人)

IV 病原体検出情報 検出情報はありませんでした。

感染症の窓

デング熱(四類全数把握疾患)

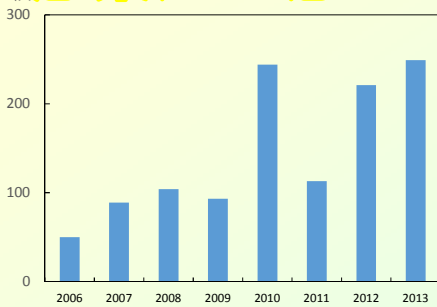


図1 過去8年間の報告数推移(全国)

デング熱はフラビウイルス科に属するデングウイルスによる感染症で、ウイルスを保有した蚊に刺されることにより感染します。3~14日(多くは4~7日)の潜伏期の後に突然の高熱で発症し、頭痛、眼窩痛、顔面紅潮、結膜充血を伴います。全身の筋肉痛、骨関節痛、全身倦怠感を呈し、体幹から始まり四肢、顔面へ広がる発疹がみられますが、症状は1週間程度で回復します。出血やショック症状を伴う重症型としてデング出血熱があり、全身管理が必要となることもあります。人から人への直接感染はありません。

海外で感染して国内で発症する例(輸入症例)は、年間200件前後報告されており(図1)、青森県内においても2012年第41週に海外渡航歴のある1件の患者報告があります。

今般、海外渡航歴がないにもかかわらず、デング熱への罹患が疑われる患者が発生し、国立感染症研究所で確認検査を実施したところ、デング熱の患者であることが確認されました。以降、これまでに計80人のデング熱感染者が確認されています(平成26年9月8日11:00現在)。本県でも、国内でデング熱に感染した患者が1名確認されています。そのほとんどは都立代々木公園周辺などへの訪問歴があり、その際にデングウイルスを保有している蚊に刺されて感染したと推定されています。

デング熱は、国内では1940年代前半に流行しましたが、その後、発生はありませんでした。国内での感染例は69年ぶりです。厚生労働省では、海外感染者の血を吸った蚊の体内でウイルスが増え、その蚊に刺されることで別の人に感染した可能性が高いものとみえています。

デングウイルスを媒介する能力を持つヒトスジシマカなどに刺されると感染します。予防対策として、野外活動の際には、長袖・長ズボンを着用する、素足でのサンダル履き等は避け、虫除け剤を使用するなどの注意をしましょう。また、蚊に刺されてから3~7日程度で高熱が見られれば、早めに医療機関を受診してください。

なお、厚生労働省のホームページでは、デング熱に関するQ&Aを掲載しています。

(http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dengue_fever_ga.html)

V 保健所管内別全数把握疾患発生状況（2014年第20週～第36週）

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
20	H26.5.12 ~ H26.5.18		つつが虫病1人	アメーバ赤痢1人			
21	H26.5.19 ~ H26.5.25	侵襲性肺炎球菌感染症1人		梅毒1人			
22	H26.5.26 ~ H26.6.1	つつが虫病1人	後天性免疫不全症候群1人	破傷風1人			
23	H26.6.2 ~ H26.6.8		侵襲性肺炎球菌感染症1人	つつが虫病1人 レジオネラ症1人	つつが虫病1人		
24	H26.6.9 ~ H26.6.15	つつが虫病1人		E型肝炎1人 つつが虫病2人			
25	H26.6.16 ~ H26.6.22			アメーバ赤痢1人 侵襲性肺炎球菌感染症1人		つつが虫病1人	
26	H26.6.23 ~ H26.6.29	つつが虫病1人					
27	H26.6.30 ~ H26.7.6		侵襲性インフルエンザ菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人 つつが虫病1人		
28	H26.7.7 ~ H26.7.13			腸管出血性大腸菌感染症1人			
29	H26.7.14 ~ H26.7.20	A型肝炎1人 クロイツフェルト・ヤコブ病1人	E型肝炎1人				
30	H26.7.21 ~ H26.7.27						
31	H26.7.28 ~ H26.8.3	梅毒1人		腸管出血性大腸菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症2人	
32	H26.8.4 ~ H26.8.10	レジオネラ症1人					
33	H26.8.11 ~ H26.8.17	腸管出血性大腸菌感染症4人					
34	H26.8.18 ~ H26.8.24			腸管出血性大腸菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人 後天性免疫不全症候群1人	
35	H26.8.25 ~ H26.8.31						
36	H26.9.1 ~ H26.9.7	デング熱1人	腸管出血性大腸菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人	腸管出血性大腸菌感染症1人	

VI 結核(二類全数把握疾患) (2014年第26週～第36週)

単位：人

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
26	H26.6.23 ~ H26.6.29	2		4	1	1	
27	H26.6.30 ~ H26.7.6	2		2	1	1	
28	H26.7.7 ~ H26.7.13	2		5			
29	H26.7.14 ~ H26.7.20	1	1	4	1	1	1
30	H26.7.21 ~ H26.7.27	2	2	3	1		1
31	H26.7.28 ~ H26.8.3	3	1	7			
32	H26.8.4 ~ H26.8.10		5	4	1		
33	H26.8.11 ~ H26.8.17		1	4		2	
34	H26.8.18 ~ H26.8.24	2	2	6	1		
35	H26.8.25 ~ H26.8.31	1	2	12	1	1	
36	H26.9.1 ~ H26.9.7	1	5	3		1	

VII 全数把握疾患発生状況(全国-青森県)

(注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています)

全国

(2014年第1週～第34週累計)

分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキソコックス症	オウム病	回帰熱	Q熱	コングジオリデス症	重症熱性血小板減少症候群	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	ブルセラ症	ポツリヌス症	マリア	ライム病
累積報告数	16545	3	66	2771	24	12	99	389	13	7	1	1	1	44	7	111	103	105	9	1	35	7

分類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類		
疾病名	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	ハンコマイン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん			
累積報告数	748	11	719	162	309	81	111	177	965	40	129	22	1220	8	1042	85	33	265	438			

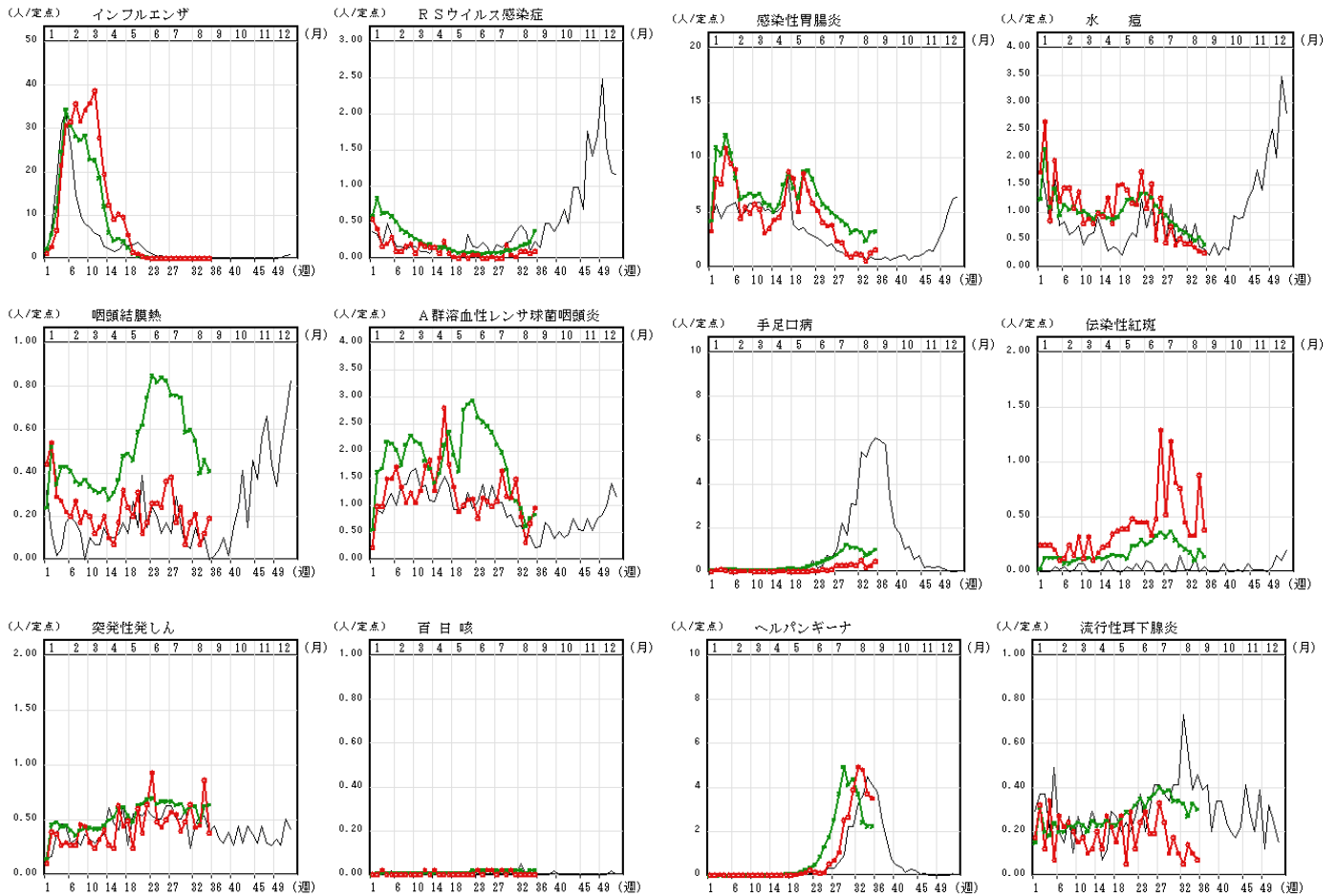
青森県

(2014年第1週～9月8日16:30累計)

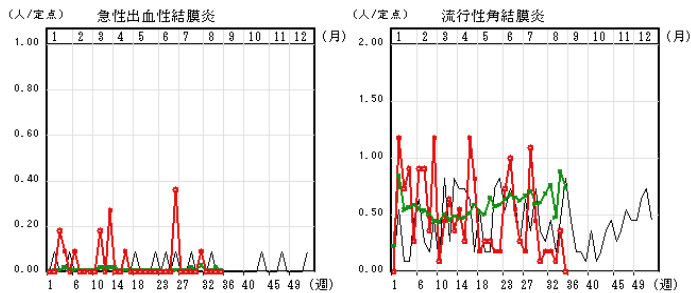
分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	A型肝炎	つつが虫病	デング熱	レジオネラ症	アメーバ赤痢	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	梅毒	破傷風	
累積報告数	255	14	2	2	10	1	3	6	8	1	1	3	1	6	4	1	

VIII インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移 (2014年第35週)

グラフの説明 ○—○は2014年青森県、——は2013年青森県、 ×—×は2014年全国



IX 眼科定点把握疾患週別推移 (2014年第35週)



X 基幹定点把握疾患週別推移 (2014年第35週)

